

専任教員の教育・研究業績

所属	職名	氏名	大学院における研究指導担当資格の有無	無	
体育学部	助教	岡村修平			
Ⅰ 教育活動					
教育実践上の主な業績		年月日（期間）	概 要		
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）					
2 作成した教科書、教材、参考書					
体力トレーニング論・同実習「実習ノート」		令和4年4月1日～現在に至る	「体力トレーニング論・同実習」を補助する内容を記載しており，学生の授業理解を深める取り組みをしている．		
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等					
4 その他教育活動上特記すべき事項					
Ⅱ 研究活動					
著書（単著）					
書名	著者	総頁数	発行所	発行地	発行年月
著書（共著・分担執筆）					
題目／書名	著者／編者	初（始）頁～終頁	発行所	発行地	発行年月
Ball Data Analysis of Ground strokes by Professional Male Tennis Players -Focus on the Difference in Ball Placement and Position-, Shunsuke, Murakami, Ryogo Kashiwagi, <u>Shuhei Okamura</u> , Hiroo Takahashi. / Science and Racket Sports VI	Miran Kondric, David Cabello Manrique, Metta Pinthong	分担執筆, 52頁～58頁	Samba tisk	Bangkok, Kuala Lumpur, Singapore	令和元年9月
The Ball Speed and The Ball Spin Created by Ground Stroke During the Rallies in an Actual Tennis Match, Ryogo Kashiwagi, <u>Shuhei Okamura</u> , Shunsuke, Murakami, Hiroo Takahashi. / Science and Racket Sports VI	Miran Kondric, David Cabello Manrique, Metta Pinthong	分担執筆, 65頁～69頁	Samba tisk	Bangkok, Kuala Lumpur, Singapore	令和元年9月
Relationship Between Racket Swing and Ball Movement in Tennis Forehand Stroke -Experimental Study by Two Participants-, <u>Shuhei Okamura</u> , Ryogo Kashiwagi, Shunsuke, Murakami, Hiroo Takahashi. / Science and Racket Sports VI	Miran Kondric, David Cabello Manrique, Metta Pinthong	分担執筆, 78頁～82頁	Samba tisk	Bangkok, Kuala Lumpur, Singapore	令和元年9月
The Relationship Between the Ball Speed and the Ball Spin Rate of Serves in Collegiate Male Tennis Players, Hiroo Takahashi, Ryogo Kashiwagi, <u>Shuhei Okamura</u> , Shunsuke, Murakami. / Science and Racket Sports VI	Miran Kondric, David Cabello Manrique, Metta Pinthong	分担執筆, 110頁～115頁	Samba tisk	Bangkok, Kuala Lumpur, Singapore	令和元年9月
原著論文（審査機関を有する学術誌に掲載の論文に限る。学会抄録等は含めない。）					
題名	著者	誌名	巻	初（始）頁～終頁	発行年月
テニスにおける1st サービスのスピード及び回転数とポイント取得率の関係ーサービスコースに着目してー	柏木涼吾, 村上俊祐, <u>岡村修平</u> , 沼田薫樹, 岩永信哉, 高橋仁大.	九州体育・スポーツ学研究	36(2)	1頁～11頁	令和4年2月
The differences in the ball speed and the spin rate depending on the results of a tennis serve	Ryogo Kashiwagi, <u>Shuhei Okamura</u> , Shinya Iwanaga, Shunsuke, Murakami, Koki Numata, Hiroo Takahashi.	Malaysian Journal of Movement, Health and Exercises	10(1)	67頁～71頁	令和3年1月
日本男子トップテニス選手のグラウンドストロークにおける打球データの分析-練習マッチにおける2選手の特徴-	村上俊祐, 北村哲, 佐藤文平, <u>岡村修平</u> , 柏木涼吾, 前田明, 高橋仁大.	スポーツパフォーマンス研究	12	753頁～765頁	令和2年11月

テニスにおけるハードコートでのスライドフットワークが繰り返し時間に及ぼす影響	柏木涼吾, 高橋仁大, 村上俊祐, 岡村修平, 野村慧介, 前田明.		スポーツパフォーマンス研究	12	46頁～56頁	令和2年2月
テニスにおけるサービス時のゲーム展開の予測が苦手コースのサービス・パフォーマンスに与える影響.	岡村修平, 高橋仁大, 小笠希将, 村上俊祐, 柏木涼吾, 野村慧介, 中本浩暉.		スポーツパフォーマンス研究	11	275頁～288頁	平成31年5月
バスケットボールにおけるオフェンスリバウンド参加人数に関する研究.	野村慧介, 高橋仁大, 三浦健, 片桐章光, 岡村修平, 柏木涼吾, 木場一総.		スポーツパフォーマンス研究	10	188頁～197頁	平成30年8月
総説						
題名		著者		誌名	巻	初(始)頁～終頁
その他 (「症例報告」、「実践報告」、「研究ノート」等区分を記入)						
区分	題名		著者		誌名	巻
学会発表 (「国際学会」、「国内学会 (一般演題、シンポジウム、課題研究、講演等)」、「研究会」等区分を記入)						
区分	年月	学会名		演題名	場所	発表者名
国内(一般演題)	令和4年3月	第33回日本コーチング学会		テニスのダブルスにおいて用いられる技術とカウントの関係 ー男女大学テニス選手を対象としてー	オンライン (鹿屋体育大学・鹿児島)	岡村修平, 宮地弘太郎, 梅林薫
国内(一般演題)	令和2年12月	第6回日本スポーツパフォーマンス学会大会		ジュニア期以降に競技力を向上させた男子大学テニス選手の事例的研究 -ネットプレーに着目して-	オンライン	岡村修平, 村上俊祐, 沼田薫樹, 柏木涼吾, 岩永信哉, 高橋仁大.
国内(一般演題)	令和2年9月	第69回九州・体育スポーツ学会大会		ジュニア期以降に競技力を向上させた男子大学テニス選手の事例的研究 -大学1, 2年次に着目して-	オンライン	岡村修平, 岩永信哉, 沼田薫樹, 高橋仁大.
国際	平成30年9月	VII World Congress of Performance Analysis of Sport		Comparing Ball Speed and Ball Spin of Tennis Serve Between Game Situation and Practice in Collegiate Male Tennis Players.	クロアチア・オパティヤ	Hiroo Takahashi, Shuhei Okamura, Ryogo Kashiwagi, Koki Numata, Shunsuke, Murakami.
国際	平成30年7月	6th World Congress of Racket Science		Racket Swing and Ball Movement in Tennis Forehand Stroke -Experimental Study by Two Participants-	タイ・バンコク	Shuhei Okamura, Ryogo Kashiwagi, Shunsuke, Murakami, Hiroo Takahashi.
国際	平成30年7月	6th World Congress of Racket Science		Ball Data Analysis of Ground strokes by Professional Male Tennis Players -Focus on the Difference in Ball Placement and Position-	タイ・バンコク	Shunsuke, Murakami, Ryogo Kashiwagi, Shuhei Okamura, Hiroo Takahashi.
国際	平成30年7月	6th World Congress of Racket Science		The Ball Speed and The Ball Spin Created by Ground Stroke During the Rallies in an Actual Tennis Match.	タイ・バンコク	Ryogo Kashiwagi, Shuhei Okamura, Shunsuke, Murakami, Hiroo Takahashi.
国際	平成30年7月	6th World Congress of Racket Science		The Relationship Between the Ball Speed and the Ball Spin Rate of Serves in Collegiate Male Tennis Players.	タイ・バンコク	Hiroo Takahashi, Ryogo Kashiwagi, Shuhei Okamura, Shunsuke, Murakami.
国内(一般演題)	平成30年6月	第30回テニス学会		テニスにおけるフォアハンドストロークのラケットのスイングとボールの速度・回転数の関係ーボールマシンを用いた複数の参加者による実験からー.	専修大学・東京	岡村修平, 柏木涼吾, 村上俊祐, 高橋仁大.
国内(一般演題)	平成30年6月	第30回テニス学会		テニスのゲームにおけるグラウンドストロークのボールの速度及び回転数ートーナメントにおける実践での打球を対象にー.	専修大学・東京	柏木涼吾, 岡村修平, 村上俊祐, 高橋仁大.
国内(一般演題)	平成30年6月	第30回テニス学会		日本トップテニス選手のグラウンドストロークにおける打球データ分析.	専修大学・東京	村上俊祐, 岡村修平, 柏木涼吾, 北村哲, 高橋仁大.
国内(一般演題)	平成29年12月	第29回テニス学会		テニスにおけるフォアハンドストロークのラケットのスイングとボールの速度・回転数の関係.	慶應義塾大学・東京	岡村修平, 柏木涼吾, 村上俊祐, 高橋仁大.
国内(一般演題)	平成29年12月	第29回テニス学会		テニスのゲームにおけるグラウンドストロークのボールの速度及び回転数の関係.	慶應義塾大学・東京	柏木涼吾, 岡村修平, 村上俊祐, 高橋仁大.
国際	平成29年10月	2nd Asia-Pacific Conference of Performance Analysis of Sport		Relationship Between Rac-ket Swing and Ball Movement in Tennis Forehand Stroke.	マレーシア・クダ州	Shuhei Okamura, Ryogo Kashiwagi, Shunsuke, Murakami, Hiroo Takahashi.

国際	平成29年10月	2nd Asia-Pacific Conference of Performance Analysis of Sport	Comparison of Forehand Strokes in Collegiate Male Tennis Players Between on Game Situation and on Experimental Situation -The Evaluation Based on the Relationship Between Ball Speed and Ball Spin Rates-	マレーシア・クダ州	Shunsuke, Murakami, Ryogo Kashiwagi, <u>Shuhei Okamura</u> , Hiroo Takahashi.
国際	平成29年10月	2nd Asia-Pacific Conference of Performance Analysis of Sport	Ball Speed and Ball Spin of Groundstrokes in an Actual Tennis Match.	マレーシア・クダ州	Ryogo Kashiwagi, <u>Shuhei Okamura</u> , Shunsuke, Murakami, Hiroo Takahashi.
国際	平成29年10月	2nd Asia-Pacific Conference of Performance Analysis of Sport	Analyzing Ball Speed and Ball Spin of Tennis Serve with Trackman Tennis Radar.	マレーシア・クダ州	Hiroo Takahashi, Ryogo Kashiwagi, <u>Shuhei Okamura</u> , Shunsuke, Murakami.
科学研究費等の取得状況					
科学研究費／その他の助成金／外部資金					
区分	種類	題目	代表・分担の別	期間	助成額（期間内の総額）
特許					
特許名称	発明者／出願人	出願日／出願番号	公開番号	取得した場合⇒	公告・特許番号
Ⅲ 加入学会および社会における活動					
期 間	内 容				
加入学会					
平成29年～現在	日本テニス学会会員				
平成29年～現在	日本スポーツパフォーマンス学会会員				
令和2年～現在	九州体育・スポーツ学会会員				
令和3年～現在	日本コーチング学会会員				
社会的活動					
Ⅳ 管理活動					
期 間	内 容				
委員会活動					
特別プロジェクト活動					
Ⅴ クラブ活動の指導業績					
1. 指導クラブ名	女子テニス 部	2. 役職	2021～ 監督	3. 部員数	23 人
4. 現場指導の頻度	① ① ほぼ毎日 ② 週3日 ③ 週1日 ④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導 ⑤ 全く関与していない				
5. 合宿指導	年間合宿回数：	2 回	延べ日数：	14 日	
6. クラブの競技力向上への取り組み	①	①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない			
7. クラブの教育及び部員の学習への取り組み	②	①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない			
8. 部員の就職指導への取り組み	③	①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない			
9. 年間の引率公式大会名	大 会 名		期 間	場 所	
10. クラブ戦績 （全日本選手権8位以上、関西選手権4位以上、関西1部リーグ3位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。）					
開 催 期 間	大 会 名		成 績	場 所	
Ⅵ 賞罰（職務に関する賞罰）					
年 月	受賞等機関名	内 容		備 考	